

令和 7 年度  
小平地域効果的捕獲促進事業  
(エゾシカ指定管理鳥獣捕獲等事業委託業務)  
報告書

令和 8 年 3 月

合同会社ワイルドライフプロ・  
株式会社島嶼生物研究所受託コンソーシアム

# 目次

1. 事前調査及び地元との調整について .....	1
1-1. 事前調査.....	1
1-2. 地元との調整 .....	2
(1) 第1回調整会議の概要 .....	2
(2) 第2回調整会議の概要 .....	4
2. 捕獲準備から捕獲実施、捕獲結果について .....	6
2-1. 捕獲の準備 .....	6
(1) 周知・現地立入規制 .....	6
(2) 関連法令・規制.....	7
2-2. 捕獲の実施.....	8
(1) 捕獲手法の概要.....	8
(2) 実施スケジュール.....	8
(3) 実施体制.....	8
(4) 捕獲手法の詳細.....	8
2-3. 捕獲結果.....	15
(1) 作業の実施状況.....	15
(2) 餌付け・誘引の状況 .....	15
(3) 捕獲の実績.....	18
3. 捕獲手法の検証.....	22
3-1. 捕獲適地の創出.....	22
3-2. 「捕獲適地」と捕獲成果.....	23
3-3. 捕獲の効率性 .....	24
3-4. 捕獲効率向上のための知見 .....	25
(1) 悪天候と捕獲作業.....	25
(2) 餌の誘引効果の持続性検討 .....	25
4. 捕獲個体の処理.....	27
5. まとめ（その他） .....	28

## 1. 事前調査及び地元との調整について

### 1-1. 事前調査

留萌振興局管内では、令和4年度より指定管理鳥獣捕獲等事業が展開されており、本地域においても令和5年度から事業が開始されている。本年度の事業実施に先立ち、事前調査を令和7年10月30日に実施した。事前調査は、現地のエゾシカの生息状況把握および捕獲に使用するための柵の配置の検討を目的とした

調査では、実際の地形に即して柵の配置計画を策定し、候補地点の立木に目印となるテープを設置した(写真1.左)。また、捕獲時の安全確保を最優先とし、発砲の安土(バックストップ)の有無や、射撃方向が山側を向くかなどの射撃条件を詳細に検討した。

あわせて、林道入口への資材保管用物置の設置に向け、土地境界および地盤状況の確認を行ったほか、積雪期のスノーモビル運用を想定した柵設置地点までの動線確認を行い、円滑な事業遂行のための諸条件を確認した(写真1.右)。



写真1. 事前調査の様子

(左：目印となるテープを設置する作業員、右：資材保管用物置の設置予定地)

## 1-2. 地元との調整

### (1) 第1回調整会議の概要

#### 1) 目的

実施地域において、北海道が開催する調整会議に出席し、地域の関係機関との調整及び地域住民等への安全管理の確保のため、捕獲作業計画について説明を実施した。また、その際に関係者からの情報や要望を聞き取り、できる限り捕獲作業に反映させた。

#### 2) 出席者

出席者を表1に示す。

表1. 第1回調整会議出席者

区分	所属	
町	小平町	経済課
助言者	一般社団法人 北海道猟友会	留萌支部小平部会
	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	エネルギー・環境 ・地質研究所
地権者	北海道森林室	森林整備課
事務局	北海道留萌振興局	環境生活課
受託者	合同会社ワイルドライフプロ・ 株式会社島嶼生物研究所 受託コンソーシアム	合同会社ワイルドライフプロ
		株式会社島嶼生物研究所

#### 3) 開催日・場所

開催日：令和7年11月11日（火） 13時30分～14時30分

場 所：留萌振興局 1階102会議室

#### 4) 議事概要

質問及び意見を表2に示す。

表 2. 第 1 回調整会議議事概要

提案の捕獲手法に関する質疑	
意見・質問等	回答等
過去にこの捕獲手法を実践したことはあるか。(猟友会)	全く同様の手法での実施はない。しかし、車や人での囲いわなへの追い込みや、待ち伏せについては実績がある。従来の手法(誘引狙撃)に、柵を追加し、効率化を図る技術開発と位置づけている。(受託者)
捕獲前日にネットを下げると、柵の状況が変わったことをシカが警戒するのではないか。シカが一番近い抜け道を学習するため、人がいても一番近い抜け道から逃げる可能性があるのではないか。(猟友会)	ネットの開け加減がポイントと考えている。事前にシカがネット奥に逃げることができることを学習してもらい、捕獲の際には通れないところを、射手が撃つ想定である。(受託者)
餌付けの際にも、ネットを下げ、捕獲時と同様の状況にして、慣らすのはいかがか。(道総研)	状況によっては実施を検討する。(受託者)
捕獲前日にネットを下げた後は、シカが普段、北東から南西にかけて移動して柵に入る形を遮り、迂回して餌場に来ることになると思うが、それでもシカが入るか。(道総研)	シカをどれだけ誘引できるかがポイントになる。スノーモービルを走らせることで固くなった踏み痕は、シカも歩きやすく利用する様子がよく観察される。実施場所は林道が伸びているため、スノーモービルを走らせることでシカを奥から誘引することが可能と考えている。(受託者)

モニタリングデータの収集と手法の評価について	
意見・質問等	回答等
カメラは4台設置し、うち柵の中は1台の予定になっている。通信型かと思うが、通信型以外のカメラも設置する予定はあるか。シカが逃げた場合に備え、捕獲の際のシカの行動を記録してほしい。(道総研)	メール送信機能付きのカメラを使う予定である。一方、電波の入らない場所もあるので、普通のカメラ設置も想定している。(受託者) 出現頭数、捕獲頭数、逃走した頭数、逃走した状況についてデータを取る。また、過去の待ち伏せ狙撃と今回の手法で成果を比較可能と考えている。(受託者)
自動撮影カメラを用いた監視について、シカが全然来ないときはどのような対応を想定しているか。(道総研)	自動撮影カメラについて、日・時間帯別、最大頭数で整理する。事業の背景から、餌を撒けばシカは集まるという想定である。(受託者)
モニタリングにより、特定の時間帯に多くのシカが集まる傾向があれば、そのタイミングで捕獲できないかと感じた。(道総研)	夕方にシカが餌を食べるために追い込み部を迂回して柵内に入ってきた所、もしくは明け方に柵から出ていく所を捕獲することを考えている。状況により、臨機応変に対応する。(受託者)
昨年度までの情報として、餌を撒いている場所には基本的に来るが、それに気づかない群れはそのまま斜面に流れてしまい、餌に気づいた群れとそうでない群れで差が激しい。また、柵設置予定の南東側に小さい沢があり、昨年度はその辺りとトドマツ林に滞留していた群れがいた。そのため、最初はその群れを捕獲することになるのではないか。(事務局)	

射撃について	
意見・質問等	回答等
現地で銃弾のラインについて、場合によっては、枝を切る必要もあるかと思う。実施していく中で何かあればご連絡いただければ対処する。(森林室)	現地が斜面になっているため、どうしても上方の木々の間を狙って撃つことになると思う。(受託者)
斜面に対し垂直に2列に並んで植えているため、2列に沿って撃つのがいいか。いずれにしても緩衝帯が下にあるので問題ないと思う。(森林室)	適宜情報共有しながら実施する。今回は山側(東側)に向かい、バックストップからの逸脱が万が一にもないよう実施する。(受託者)

(2) 第2回調整会議の概要

1) 目的

実施地域において、北海道が開催する調整会議に出席し、本捕獲事業の結果について説明し、意見交換を行った。

2) 出席者

出席者を表3に示す。

表3. 第2回調整会議出席者

区分	所属	
町	小平町	経済課
助言者	一般社団法人 北海道猟友会	留萌支部小平部会
	地方独立行政法人 北海道立総合研究機構	エネルギー・環境 ・地質研究所
地権者	北海道森林室	森林整備課
事務局	北海道留萌振興局	環境生活課
受託者	合同会社ワイルドライフプロ・ 株式会社島嶼生物研究所 受託コンソーシアム	合同会社ワイルドライフプロ 株式会社島嶼生物研究所

3) 開催日・場所

開催日：令和8年3月11日（水） 10時00分～11時30分

場 所：小平町健康福祉センター 集団研修室

4) 議事概要

質問及び意見を表4に示す。

表4. 第2回調整会議議事概要

柵の構造について	
意見・質問等	回答等
<p>今年は雪が多くない年であったが、ネットが雪に埋まることはなかったか。ネットの高さ2.4m、1.2mはたわませておいたということか。（猟友会）</p>	<p>雪に埋まることはあった。11月に柵を設置したが、1月の捕獲開始時点で雪が少なかったためネットを下げた。</p> <p>捕獲の際、1.2mは内側にたわませており、2月の前半頃までは雪が降ると、たわませた部分に積もるため重石代わりになった。一方、2月中旬以降に気温が上がると固雪になり、ネットが氷と一体化した。そのため、週に2～3回の作業の際には、積雪に応じた高さ調整、ネットの雪を払うといった、メンテナンスを実施した。（受託者）</p>
<p>ネットをはどのくらいの間隔で吊り下げたのか。（猟友会）</p>	<p>間隔は概ね4～5mとした。（受託者）</p>

利活用と餌付けについて	
意見・質問等	回答等
<p>知床の利活用率が高いのは1回の捕獲頭数が少数だからという理解でよろしいか。 また、餌はタイマーなどで時間管理していたのか。(猟友会)</p>	<p>その通りである。 餌撒きは毎日人が実施した。毎日実施することで、シカも人が来ると餌をもらえる学習をし、直後に出るようになるため、捕獲効率を高められた。今回の事業は週1~3回の餌付け頻度だったため、直後に出てくる状況はなかった。(受託者)</p>
<p>アライグマの箱わなを利用し、餌付けを行っていたが、カゴ等での代用は可能か。 林道上に餌を撒いても、ネットが下りているとなかなか入らないというのは、林道上にまだ餌があるためそちらの方に行くということか。(道総研)</p>	<p>代用も可能だが、箱わな自体が代用を考えるほど高額なものでもなく、利点も多かったため完成度は高いといえる。 林道上に餌を撒いた先は、入りやすいようにネットを上げており、柵内も餌はあがるが、構造物を嫌がり、柵で躊躇・迂回していた。(受託者)</p>

捕獲について	
意見・質問等	回答等
<p>誘導部までスノーモービル以外で近づいたことはあったか。(猟友会)</p>	<p>今回の事業ではスノーモービル以外で近づいていない。歩いて近づいて、逃げられたときは、追いつくことができなかったと思う。(受託者)</p>
<p>捕獲時以外は囲い部のネットを上げており、そこを利用するシカ道もあったと思うが、捕獲の際に閉じたときはシカはどのような動きをしていたのか。(事務局)</p>	<p>一部は迂回して入るが、入らない個体もいたことは柵外につけたカメラで確認した。 この業務は1日1回の捕獲機会であった。この要因として、発砲数が多いため警戒されたこともあるが、その時に来ているシカをまとめて捕獲できているからともいえる。(受託者)</p>
<p>開口部を約5mにしていたが、この距離は妥当であったか。狭い方がシカが逃げなくていいのか、それとも誘引数を増やすため広げて対応できるのか。(道総研)</p>	<p>常に2人で捕獲にあたることにすれば広げて問題ない。 また、開口部を広く開けておき、射手が到着した時点でカーテンのように網を張り、逃走を防止する捕獲手法も考えられる。(受託者)</p>
<p>追い込み部は拡大するほど誘引できるし、恐らく警戒心も下がるだろう。天候が悪い時は中で休んでいる個体がいたということであったが、餌があり休める場所となればシカが1日中滞在することもあり得るか。(道総研)</p>	<p>柵を設置した場所は、西風が当たらない針葉樹内であった。仮に牧草ロールを置き、いつでも餌がある状況を創出すれば、柵の中で1日中滞在することもあるのではないかと。(受託者)</p>
<p>滞在が徐々に夜間にシフトしていったが、そういう点でも拡大させ、滞在時間を長くする、日中にいても工夫をするというのが大事か。(道総研)</p>	<p>捕獲の後半、餌が残っているのに日の出とともにいなくなるのは、警戒心の上昇と考えられる。 今後、大型柵を1基作るのか、中型柵を複数基作るのかになると思う。1ヶ所に大型柵を作るとシカを呼べる範囲は半径200~300m以内になると思われるため、200~300m離してもう1基設置の方が効率のかもかもしれない。いずれにしても、安全な発砲方向、道路や送電線の位置関係なども含め、現地で検討する必要がある。(受託者)</p>
<p>生息頭数なども含め、現場に合わせた検討が必要と感じた。中型を複数設置する方が機会は増えると思われる。(道総研)</p>	
<p>捕獲が最大で13頭という話であったが、回収にどの程度の時間を要したか。(猟友会)</p>	<p>回収し道路まで下げるには、3人で1時間強ほど要した。7時に捕獲し、計測なども終え現地は10時に切り上げているが、処理施設の搬入も含めると更に4時間ほど要した。(受託者)</p>
<p>知床での業務はメス成獣の捕獲割合は小平ほど低いのか。(猟友会)</p>	<p>知床は5割程がメス成獣である。それは手法として射手が目視により、メス成獣を優先して撃つためである。 今回、捕獲の初期段階にもメス成獣が捕獲できなかったのは、構造物として認識されてしまっているため、改善の余地があると思う。(受託者)</p>
<p>積雪深はどの時期が一番あったか。(事務局)</p>	<p>2月15日頃が最も深かった。年によって積雪の条件も異なるため、捕獲期間を長めに計画しておく柔軟に対応できてよい。(受託者)</p>
<p>誘導部の個体が逃げたというのはどのように確認したのか。また、逆に追い込み部に向かった個体は確認できたか。(道総研)</p>	<p>射手目線の確認である。追い込み部に向かった個体はいなかった。誘導部をなくし袋型にした方が、成果を最大化できると感じた。(受託者)</p>

## 2. 捕獲準備から捕獲実施、捕獲結果について

### 2-1. 捕獲の準備

#### (1) 周知・現地立入規制

##### 1) 周知

捕獲事業の実施にあたり、小平町の広報誌等を通じて事業概要を公表し、周辺住民への周知を図った(写真 2. 左)。捕獲作業の開始に際しては、対象区域内への一般人の立ち入りが無いことを目視により確認した。駐車車両や新しい足跡など、人の立ち入りが示唆される痕跡を認めた場合は、対象者を区域外へ誘導した上で実施することとし、退去が困難な状況においては捕獲の中止または延期の措置を検討した。

また林道入口に捕獲作業の概要を記した看板を掲示するとともに、捕獲作業の実施中は林道入口に「作業中」ののぼり旗を設置、監視員を配置して第三者の進入を未然に防止した(写真 2. 右)。現場においては、捕獲従事者、作業員、および監視員の全員が業務用無線機を常時携帯し、相互にリアルタイムで連絡を共有できる通信体制を構築・維持して作業にあたった。



写真 2. 小平町広報誌(令和 8 年 1 月号)に掲載した周知文面(左)と現地看板(右)

##### 2) その他

捕獲業務の作業者は、合同会社ワイルドライフプロが定める別紙の「鳥獣捕獲等事業の実施に係る安全管理規程」に従って業務を遂行。また始業前後のミーティングにおいて、作業内容や注意点を十分に確認した。

(2) 関連法令・規制

本事業は道有林で実施することから、調査および捕獲のための入林に際して届出を行うとともに、捕獲許可申請を行った（表 5）。

表 5. 業務実施にあたり関連する法令等及び申請した許認可

法令等		申請先	目的・内容	適用
鳥獣保護管理法	捕獲許可申請	北海道知事 (留萌振興局保健環境部環境生活課)	エゾシカの捕獲	銃による捕獲
—	入林届	北海道留萌振興局森林室	柵・自動撮影カメラ・スーパーハウスの設置、スノーモビル通行	道有林への立ち入り

## 2-2. 捕獲の実施

### (1) 捕獲手法の概要

本事業では、森林内の立木を利用してポリエチレン製ネットを架設し、シカの誘引・捕獲を目的とした柵を設置した。柵内に誘引餌を設置することで、シカの生息密度を高め「捕獲適地」を創出することを意図した。捕獲にあたっては、メール送信機能付き自動撮影カメラおよび監視カメラを活用し、シカの出現状況をリアルタイムで遠隔監視した。カメラで群れの進入を確認後、射手はスノーモビルを用いて迅速に柵の開口部まで移動し、シカが逃走できない状態を作り出し、ライフル銃によって狙撃を行った。一連の作業により、群れ単位の大量捕獲を実現し、効率性の高い捕獲技術の確立を目指した。

### (2) 実施スケジュール

柵の設置は積雪前の11月中旬～下旬に実施、その後は誘引のため定期的な餌付けを行った。捕獲期間は1月13日から3月4日までとした。

誘引作業は捕獲開始前に7回、捕獲開始後に10回の計17回実施、捕獲時にも適宜行った。捕獲は12回以上（週2回ペースで8週間、計16回であるものの天候等の影響で中止になることを予想して12回に設定する）とした。なお天候の状況に応じて、誘引や捕獲作業の回数は適宜調整した。

### (3) 実施体制

安全管理のため餌付け作業は2名で実施することを基本とした。捕獲作業は捕獲従事者（射手）を含む3名で実施した。

#### 【捕獲実施時の体制】

- －捕獲従事者（射手）1名：ライフル銃を使用してシカを捕獲する、作業全体を指揮
- －作業員1名：捕獲従事者の作業を補助、シカの搬出作業
- －監視員1名：林道入口での新たな人の立ち入りを防止

### (4) 捕獲手法の詳細

#### 1) 柵の構造および設置仕様

##### 柵の形状と配置

捕獲柵は全長230m、漏斗状の「誘導部」と袋状の「追い込み部」で構成した（図1、写真3）。

- 誘導部：西側に75m、林道と並行する南側に35mの計110mを配置し、対象個体を効率的に追い込み部へ導く構造とした。
- 追い込み部：全長約120m、面積約1,000 m<sup>2</sup>、幅5mの開口部を通じて誘導部と連結させた（図1）。設置地点には、作業労力の低減を目的として積雪の少ない針葉樹林を選定した。また、追い込み時の逃走速度を抑制するため、地形的に有利な緩斜面を活用した。